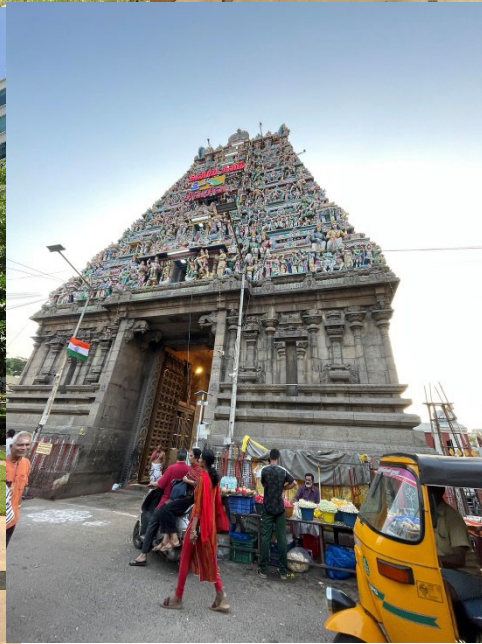
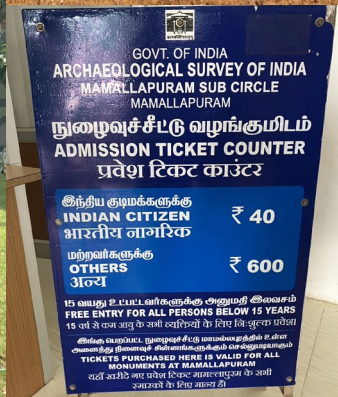


# 2023年夏渡航



# 2023年夏渡航





英会話力の向上はもちろん、インドの文化や人々と触れ合ったり最先端の研究施設を見学したりできる贅沢すぎるプログラムです。

デザイン工学部 ロボティクス情報デザイン系  
2年 逸見 光太郎さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可 派遣先： インド インド工科大学マドラス校 IITM

まず、この語学研修の参加を決めた一番大きなきっかけとしてはもともとインドの文化に対してとても興味があったからです。数理系がとても強い、カレーしか食べない、町中がカオスなどの印象があったため、インドでトップクラスに頭のいい大学に滞在できることや英語も一緒に学べるこのプログラムは自分にとって興味しかないことの盛り合わせでした。

実際のプログラムの内容もとても楽しく学びの多いことばかりでとても満足でした。

英語の授業は一日で3時間あり、その授業の内容というのも座学で授業らしい授業では全くなく、クラスメート同士でディスカッションし合ったり、プレゼンテーションをしたり英語を話す機会がとても多い授業でした。先生が話す言語もちろん英語のみのためリスニング、スピーキングともかなり強化されたと実感しています。

次にこのプログラム一番の魅力としては英語だけではないということです。

プログラムの中には博物館や市内観光などのインドの文化を体験できる機会があったり、インド最高レベルの理系大学の研究室見学、日本にも支店を構えている企業の工場内見学などこれでもかというくらい盛りだくさんの内容が組み込まれています。

僕はこのプログラムを通して日本にいたら決して体験できないことを本当にたくさん体験できました。インドと聞くと、ほかのアジア圏やアメリカよりハードルが高く感じる人も多いと思います。しかし我々へのサポートがとても手厚く、治安も良く町中の人々もとても暖かいためこのプログラムが初めての海外渡航であった参加者たちも安心して過ごすことができていました。

最後に、今後人生でインドに行く機会なんてほとんどないと思います。しかし学校がこのような素晴らしいプログラムを開催してくれています。またとない絶好のチャンスなのでぜひ一歩踏み出してインドを体感してきてほしいです。

2週間の語学研修を通じて英語に慣れることができました。

工学部 情報通信工学科 3年 内田 光祐さん



## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先： インド・IITM

英語でコミュニケーションを取れるようにすることの必要性は以前から痛感していたのですが、日常生活では英語を話す機会がほとんどなく、慣れていなかったため非常にたどたどしい話し方になってしまっていました。そのため、英語でのコミュニケーションに慣れたいと考え、2週間の語学研修に参加しました。インド工科大学マドラス校を選んだ理由は、もちろん費用の安さもありますが、急速に経済発展を遂げているインドを一度見てみたいとの思いもあったため、こちらの大学を選びました。

2週間のプログラムでは、平日は毎日3時間の英語の授業に取り組みました。英語の先生は少し厳しい方で、授業では与えられたテーマに関して流暢に詳しく話すことや、質問に即答することが求められました。また、毎日の課題や最後の授業ではプレゼンテーションも課され、大変ではありますが身になる授業でした。授業以外のアクティビティも非常に充実していて、二日に一度の朝のヨガのセッションや、午後はラボやIITMの学生との交流、シティーツアーや工場見学などの貴重な体験をさせていただきました。インドは道路を動物が歩いたり、電車のドアが閉まらずに走ったりと毎日のように日本で育った者にとっては衝撃的な出来事が起こりました。

このプログラムを通じて英語を話すことに慣れ、たどたどしさが少なくなっただけでなく、日本とは異なるインドの文化や慣習に理解を深めることができたと考えています。英語力を向上させたい方や、異なる文化を理解したい方、刺激的な2週間を楽しみたいかたは是非インド工科大学マドラス校に留学してみてもはいかがでしょうか。



授業以外で英語を使う機会が多くあり、実践的な英語力を身につけることができました！

デザイン工学部 デザイン工学科 2年  
加藤 創野さん

### 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先： インド・IITM

TOEIC対策などで聞く・読む勉強は日本でもできますが、英語を話す体験は海外でなければ十分に得られないと考え、語学研修に興味を持ちました。また、インドという国は欧米と異なり、自分自身にあまり馴染みがなかったため、夏休みに非日常を味わいたいという冒険心も動機の一つでした。

英語の授業が3時間、ほぼ毎日ありました。現地の先生による授業は、文法や新しい単語を習うものから、実践的なプレゼンテーションの練習などジャンルに富んだものでした。最終日には一人5分のプレゼンを行い、英語を話す能力の向上を強く実感できる結果となりました。段階を踏んで難しくなっていく内容とは反面、授業は先生のやさしさに溢れていて、とても楽しく英語を勉強することができたと感じます。

授業がない時間帯(主に午後)では、一緒に行ったメンバーと市街地・観光地に出向いたり、宿泊したゲストハウスの周辺で、ゲストハウスのスタッフたちを交えてバドミントンを楽しんだり、インドの生活に触れる機会も多くありました。このような英語で積極的に現地の人々と交流できた経験から、心の一部にあった「英語を話すことに対する不安」を取り払うことができたと感じます。

毎日が新鮮でたくさんのことを学ぶことができ、とても充実した2週間でした。

留学を通して、語学勉強のやる気がアップしました

工学部 機械機能工学科 3年 合田一毅さん



## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先：インド・IITM

英語の必要性を理解しつつも、自分で勉強するやる気が出なかったため語学研修に参加しました。インドIITMを選んだ理由は、現在勢いのあるインドに行ってみたかったからです。

2週間の滞在期間中は、基本IITMのキャンパス内で過ごし、月～土曜日は午前中3時間に英語授業を受講し、午後からはインド工科大学の研究室見学やチェンナイ市内の世界遺産巡りなどをしました。英語の授業は、大体一日に一回は皆の前で英語で話す機会を設けてあるため、日本では体験したことのなかったアウトプットベースの授業を受けることができました。英語の授業以外にも、現地の学生と話す機会がたくさんあり、スピーキングの良い練習になりました。

インドということで研修前は治安に少し不安がありましたが、IITMがあるチェンナイ市はインドの中では治安が良い上に、滞在先がキャンパス内のゲストハウスだったため、何か被害にあうということはありませんでした。また、滞在先のゲストハウスには様々な国の人たちがいたので、自由時間中に彼らとコミュニケーションをとれたのもよい体験となりました。

2週間にわたり様々な人たちと英語でやり取りをしましたが、自分が伝えたいことの半分も伝えることができなかつたような気がします。このプログラムに参加したおかげで、英語が使えないと困るということを身を持って体験できたので、帰国してからも英語の勉強に身が入るようになりました。

英語学習を通して、異文化に触れることで、  
貴重な経験値を得ることが出来た。



建築学部 学科 3年 安 大地さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先：IITM 2週間

私は、インド工科大学マドラス校に2週間の語学留学に行きました。海外に行くこと自体が初めてだったので、緊張しつつも、ようやく海外に行けるという思いもあり、楽しみの方が大きい気持ちでした。私は、リスニングが苦手なため、その苦手分野を克服するきっかけになればいいなという思いで、今回の語学留学に申し込みました。

本プログラムでは、午前中に毎日3時間程の英語の授業がありました。1～2時間は、基本的な英語の文法についての授業を行い、残りの1時間で、前半に習った文法を用いて、1～3人ずつで、先生から出されたお題についてディベートするといった感じの授業でした。最終日には、みんなの前で、プレゼンテーションを行いました。その他に、朝はヨガの体験教室や放課後は、現地の学生とバスケットボールやバドミントンなどほぼ毎日、沢山の交流がありました。週末になると、インドのチェンナイに在る世界遺産を巡ったり、大学の近くのショッピングモールに行ったりしました。そこでも、電車の中や観光スポットで、多くの外国の人たちや現地の人たちに話しかけられ、友達もたくさんできました。また、IITMは、ITの分野が大変強く、色々な分野での開発を学ぶことが出来ました。

2週間という短い期間ではありましたが、自分が思っている以上に、英語のリスニング力を鍛えることができ、異文化の人たちと、お互いをどのように理解するのかを学ぶことが出来ました。また、一緒に参加した芝浦の学生とも仲良くなることができ、沢山の交流が得られて、充実した2週間を過ごすことが出来ました。この経験を生かして、来年には、gPBLなどにも積極的に参加し、英語の能力以外にも、専門的な知識を身に付けていきたいです。

毎日が新しいことの発見で、英語の勉強だけではなく、文化や価値観の違いを知ることができ、刺激的な経験をする事ができた！



理工学研究科 システム理工学専攻 2年生  
生田 翔さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先：インド工科大学マドラス校

今回、インドに短期留学をしたきっかけは、大学院卒業する前に大きな経験をしたいなと感じ、一番留学費が安い、インドにノリで応募しました。参加を決めてから、インドの情報を知るたびに不安を感じていました。しかし、インドに応募したメンバーが11人ほどしかいなかったため、結束力は、他のプログラムよりも強く感じました。インドでは、毎日英語の授業があり、ほとんどフリートークのため、かなりアドリブ力が上がりました。また、最終日には、英語のプレゼンを発表する機会があり、練習を重ねた上で発表したため、かなり達成感を感じました。個人的に、英語を学ぶのは、もちろん、インドでは、研究室訪問をする機会が非常に多かったのがよかったです。インド工科大学マドラス校は世界的に見てもかなりハイレベルの大学で、日本でいう、東京大学の理科三類レベルの高さの学生が集まっています。自分の専攻が機械系だったので、世界最高峰の学生と交流することで世界の考え方や新たな価値観を知ることができ、自分自身をもう一度見直すいい機会となりました。生活面では、体調を崩す学生を多かったです。メンバー同士が非常に仲良かったため、助け合いながら生活することで特に不自由はなかったです。強いていうと、毎日3食カレーの生活が続くので、他に日本食を持参することをおすすめします。大学内が非常に広く、基本的にバスで移動しました。大学内で生活する分には、特に安全らしいのですが、街中は、危険なエリアも存在するため、行動する際には、基本的にグループで行動するように心がけました。街中は、車の騒音が大きく、サルや犬や牛やシカなどがそこら中にいるため、食料を持って行動すると襲われることを学びました。このように日本では当たり前であることが、インドでは全然当たり前ではないため、新たな価値観を知ることができたり、英語だけではなく、何かしら大きな成長を感じ取ることができたような気がします。社会人になると、忙しくなり、このような長い休みを取ることができないため、時間がある学生のうちに留学することをおすすめします。特にインドは一生いく機会がないと思うので特におすすめです。



英語の瞬発力が身に付きました。  
異なる文化圏での生活は刺激的なものばかりでした。Incredible India

建築学部 UA 3年 朝野 太仁さん

### 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先：IITM

入学当初から留学に行きたいと思っていました。しかし、コロナによる規制が緩くなるまで海外に行けなかったのが3年生での参加になりました。私は長期留学にも興味があり、その前に短期留学を体験しようと考えました。英語力を向上させるのはもちろんですが、私は刺激的な異文化を体験したかったのでインドを選びました。インドは英語圏の国ではないものの日常のコミュニケーションで使うほどみんなが話せます。ネイティブではない人の話す英語は、とても勉強になります。

滞在中は英語の授業と、シティツアーやラボ見学、スタートアップ企業見学に行きました。学校が休みの日は世界遺産や街の観光をしました。

このプロジェクトに参加して最も強く感じたことはIncredible Indiaです。前述した通り、私はインドの文化や人々の暮らしに関心がありました。そしてそれは、私たちの生活習慣、食生活、迷信、価値観とはかけ離れたものが多かったです。食事はほとんどカレーではなく、全てカレー。電車のドアやバスのドアは無く走行中は体を乗り出している人もいます。貧富の差が大きく、生活水準のギャップも見られました。近年、急成長している国として注目されているインドですが、研究所やスタートアップ企業はとても活気があり明るい未来が垣間見えました。一方貧困層の居住エリアは衛生環境が悪く、私はインドが発展するために居住空間の改善が不可欠と感じました。またインドには歴史ある伝統や文化遺産が数多く存在し国としての奥深さも感じました。私の常識では信じられない常識が基準の異文化圏での体験はほんとに貴重であり、価値観や視野が広がったと思います。

Thank you incredible India